日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク

2012年1月27日 ニュースレター No.3

連絡先：大阪市生野区勝山北
4-9-12　Cafeナビ気付
Email：ianfu_ketsugi@jca.apc.org
URL：http://www.jca.apc.org/ianfu_ketsugi/
振込口座：00980―3―209232
口座名義：日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク

日本政府の勇気ある決断をもとめます

一刻も早く被害者に公式謝罪と賠償を！

新しい年を迎え、本年も日本軍「慰安婦」問題解決に向けて、全力で取り組んでいく決意を新たにしています。

昨年、私たちは、前半は金学順さん証言から20年目の取り組みを、後半は12・14韓国水曜デモ1000回連帯アクションと、一年を全力で走り抜けました。みなさまの熱い応援と、ご協力のおかげで、そのひとつひとつを大きな成果とともに終えることができました。しかし、残念ながら日本政府は「慰安婦」問題の解決へと踏み出していません。

昨年一年の間に韓国だけで16名の被害者が亡くなり、生存者は63名になりました。各国被害者も同様の状況です。

民主党政権発足から2年半、解決のチャンス到来と、「日本軍『慰安婦』問題解決全国行動2010」を立ちあげて２年、政府への働きかけを強めながら行動を進めてきましたが、いよいよ正念場を迎えています。

■韓国憲法裁判所の決定と日本政府の対応

昨年８月30日、韓国憲法裁判所が韓国政府に対し、「慰安婦」問題解決への外交努力を促す決定を下しました。「慰安婦」問題が1965年の日韓協定で解決済みという解釈について両国間に相違（紛争）があるにもかかわらず、具体的な措置をとってこなかった韓国政府の外交不作為が憲法に違反しているというものです。

韓国政府はこれを受けて９月15日に日本政府に対して公式に協議の申し入れを行ない、24日には日韓外相会談でも提案を行いました。しかし、玄葉外務大臣は「1965年の日韓請求権協定で完全かつ最終的

韓国水曜デモ1000回アクションへのご協力・ご賛同ありがとうございました

写真は１２月１４日、大阪市北区・扇町公園で開催されたキャンドルナイト☆コンサートでの「1000」の人文字です。この日を到達点とする一連のアクションに、多くの方々にご協力いただきました。

（報告は３ページから）

に解決された」と答えました。韓国政府代表が10月の国連総会で、「慰安婦」問題を含む武力紛争下における性暴力問題の終息と再発防止について言及したのに対し、日本政府代表は「慰安婦」問題は二国間協定で法的に解決済みであると繰り返しました。

12月18日、京都で開催された日韓首脳会談において、李明博大統領は韓国大統領として初めて日本の首相に対して「慰安婦」問題の優先的解決を求めました。そして「一生の恨(ハン)を抱いて生きてきた63名のハルモニたちが亡くなられたら、両国間に解消できない負担として残る」と語りました。しかし野田首相は「決着済み」として、政府間協議には応じない姿勢を強調、返す言葉で日本大使館前の「平和碑」を「早期に撤去」するよう求めたのです。これに対して李大統領が「誠意のある措置がなければ第２、第３の像が建つ」と応酬しました。野田首相は「人道的努力に知恵を絞る」と発言しましたが、被害者が受け入れられるのは法的解決しかありません。

これまで「慰安婦」問題に積極的ではないと言われていた李大統領をここまで言わせた背景には、韓国国内での解決を求める声の高まりがあります。12月14日の1000回水曜デモには２千人を超える人々が集まりました。中央には各党の国会議員が並び、ハルモニたちに激励を送ったほか、司会や文化公演も含め、芸能人の姿も目立つなど、人々の関心の高さを示しています。韓国では今年4月に国会議員選挙、12月には大統領選挙を控えており、「慰安婦」問題に対する韓国政府の対応が注目されています。

一方、民主党政権は野党時代、「慰安婦」問題解決のために「戦時性的強制被害者問題解決促進法案」を作成、2001年以降８回にわたって、国会に提出するなど、積極的に取り組んできました。政権交代当初は「東アジア共同体」を目指すなど、アジア地域との関係に重点をおいていたものの、その姿勢は徐々に後退し、「慰安婦」問題については消極的で否定的な態度に終始してきました。

■先延ばしすることなく、直ちに解決を！

この20年間の間に「慰安婦」被害者たちは、日本をはじめ世界各国を回りながら問題の解決を訴え、多くの人々の心を揺さぶり、国際機関や各国議会で取り上げられてきました。人権を尊重する国であれば、日本政府の事実を歪め責任を回避しようとする姿勢は、理解できないものであり、様々な国際人権機関も日本の対応を注視しています。また、今年は国連人権理事会で日本が審査を受ける年に当たります。「慰安婦」問題の解決は日本が国際社会で信頼を得、アジアでともに生きていくために避けては通れない課題です。

今月１月24日より通常国会が開幕しました。震災復興や原発事故問題、政治・行政改革など様々な国内問題が山積みとはいえ、外交問題をおろそかにすることはできません。日韓首脳会談で一歩も前に進まなかった両国の経済問題や安全保障問題を前に進めるためにも、日本軍「慰安婦」問題の法的解決にむけて、韓国政府の協議提案に応じることを強く望みます。

野田首相は施政方針演説の最後に「次の選挙のことだけを考えるのでなく、次の世代のことを考え抜くのが『政治家』です」と語りました。まさに、戦時性暴力の象徴的存在として国際的にも周知されている日本軍「慰安婦」問題の解決を、未解決のまま次世代に先送りするようなことがあってはならなりません。

被害者にとって、そして日本政府にとっても、問題を解決し罪を償うことのできる最後の機会になるかもしれません。今こそ政府の勇気ある決断が求められています。

政府を後押しするために、みなさまの積極的な行動をよろしくお願いします。　　（方）

◎日本政府に政治的決断を促す要請文を送りましょう！

野田佳彦　総理大臣　〒100-0014 千代田区永田町2-3-1
総理官邸FAX　03－3581－3883　　議員事務所FAX　03- 3508-3441
インターネットを利用する場合は「首相官邸」を検索し、「ご意見募集」で

玄葉光一郎　外務大臣　〒100-8919　千代田区霞が関2-2-1
外務省公聴室　FAX　03-5501-8430　　議員事務所Fax　03-3591-2635

（首相官邸や外務省への要請は、事務的に処理されかねないので、
同じ文章を議員事務所にも送ってください。）

連帯の灯りのもと　思いをひとつに　500人が結集

12・14キャンドルナイト☆コンサートをふりかえって

関西ネットワークでは、韓国水曜デモが1000回を迎える12月14日にどのようなかたちで連帯できるかということを話合い、「1000回の運動の重みを振り返りたい」「被害者たちが生存しているうちに解決をみる最後のチャンスだという思いをひとつにしたい」「多くの人に『慰安婦』問題に関心をもってもらいたい」「幅広い年齢層、幅広い運動の人たちと『慰安婦』問題を共有したい」等々の思いがまとまりました。

「寒い時期の夜間・野外での集会になるが、キャンドル集会にこだわり、極寒のソウルでデモを続けるハルモニたちに思いを寄せたい」「20年間1000回の歴史を心に刻み、解決に向けて思いをひとつにするための集会にしたい」ということも確認しあって、「キャンドルナイト☆コンサート」に向けて動き始めたのは10月初めのことでした。それから当日まで、電源確保から会場設営、コンサート、映像、キャンドル等々、スタッフみんなで知恵を出し合い、いろんな方のお世話になりながら準備をすすめました。

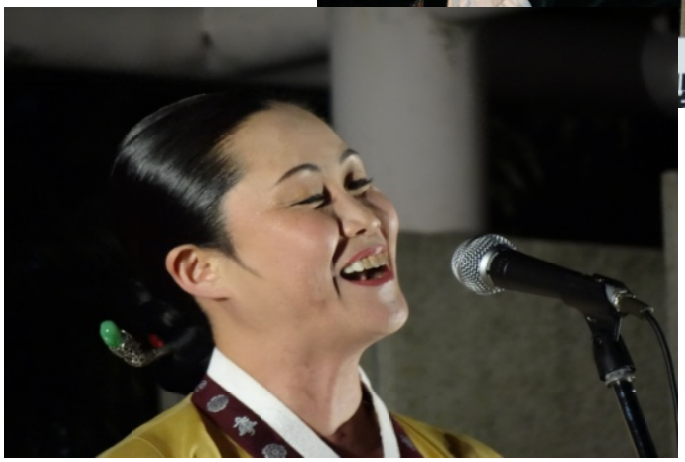
12月14日は、好天に恵まれ、いつもの顔や懐かしい顔、若い方から高齢の方、学生等々、会場のあちこちで、いろんな出会いの場が出来ました。会場の扇町公園は街中なので気軽に集まってもらいやすく、仕事を終えてから駆けつけてくれた人もいました。オンマに抱かれた赤ちゃんもいました。夜間は冷えるので、高齢の方のために座席を設けたり、カイロを配ったりもしました。

多彩な歌声と映像で

オープニングは「歌声をひとつに－ハナ」メンバーによるミニコンサートで、オリジナルの映像をバックに韓国水曜デモ・テーマソング「パウィチョロン（岩のように）」などの歌と踊りで盛り上がりました。

続いて、ゲストのはるまきちまきさん、安聖民（アンソンミン）さん、志遠（チウォン）さんの連帯の思いのこもった演奏は、冬の夜空に響き渡り、心に沁み入るものでした。

また、舞台にしつらえた大型スクリーンに「当日の韓国水曜デモ」「挺対協からのメッセージ」「水曜デモ1000回の闘いをふりかえって」「追悼」などの映像を映しました。当日にならないと様子がわからないため、その瞬間までハラハラどきどきだった当日の韓国水曜デモ映像も見事成功。ハルモニたちや「平和の碑」の除幕式の様子が映し出され、臨場感があり、韓国1000回デモとの連帯のイメージが視覚的にとらえられ、とても感動的でした。



はるまきちまきさん（右）は、特に３曲目に歌った、ちまきさんの代表曲で弱者への賛歌でもある「ちいさきものたちへ」で、私たちの魂をグッとつかみ離しませんでした。

安聖民さん（左）はアリランのメドレーを歌いました。安聖民さんのいう「心の中のアリラン峠」を越えていくハルモニたちの姿を彷彿とさせました。

志遠さん（中央）は日本軍「慰安婦」被害者の人生を歌った「鎮魂歌」で、被害者の受けた被害とその後の人生の理不尽さを思い起こさせました。

ゲストのお３方とも、被害者への思いを込めた、感動的なステージでした。ありがとうございました。　（だ）

連帯メッセージ

元ナヌムの家スタッフの村山一兵さん、韓国からの留学生イェスルさん、労働者の立場からヨンデネットのメンバー、関西ネットのメンバーにもアピールをお願いしました。様々な立場の方に、日本軍「慰安婦」問題解決への思いを提起してもらえ、課題を共有することができました。とくにイェスルさんの「(「慰安婦」制度があったことを)ウソだとか言う人もいるけど、あんなにつらいこと本当にウソだったらよかったのに。でもウソじゃない」という内容の指摘は、多くの参加者の心に深く刻まれたと思います。

「1000」の人文字　水曜デモのうた

「キャンドルの人文字で1000を描いてみたい」という計画は、本当に実現できるのかどうか、たいへん不安でしたが、参加者のみなさんとスタッフの連携で、思っていた何倍も、大きく、きれいな「1000」ができました。キャンドルを参加者のほとんどに持ってもらうことで、「1000回に参加した」という思いを共有していただけたのではないでしょうか。完成した「1000」は、準備段階で引いた文字よりもはるかに大きなものになっており「こんなに多くの人が心を寄せている」という感動と、解決への希望が見えたような気がしました。

終わってからの報道や反響で「1000」のキャンドル企画に、多くの注目が寄せられていたことも分かりました。

多くの方々の協力を得て、準備段階から当日まで、本当に多くの方にご協力いただきありがとうございました。また当日は妨害行動もありました。たくさんの警察も来ていながら、私たちの舞台すぐそばまでの進入を許し、言いたい放題で耐え難い差別排外言辞を聞かされながらの準備作業でした。当日は、いろいろな行事が重なり、警備応援が望めないということでしたが、いつも来てくださる人たちが、早い時間から、また遅くなってからでも駆けつけ、後方にいてくださいました。キャンドルを持って人文字にも参加してくださいました。いろんな方の思いが重なって、あの美しい「1000」が描けたのだと思います。心から感謝しています。

（松）

1000回を迎えた韓国の「水曜デモ」の連帯集会で、キャンドルをともし「1000」を描く参加者たち＝14日午後、大阪市北区の扇町公園、筋野健太撮影

慰安婦 尊厳問い続ける

解決まで死ねない 心は負けない

集会1千回 6カ国で連帯

元日本軍慰安婦らが日本政府の謝罪と賠償を求め、ソウルの日本大使館前で毎週水曜日に続けてきた集会が14日に通算1千回を迎えたのに合わせ、日本、カナダ、台湾など6カ国1地域の30都市以上で同日、連帯集会が開かれた。

▼3面＝日韓政府は対立

東京・霞が関では約1300人が集まり、外務省を取り囲む「人間の鎖」がつながった。全国の市民グループから成る「日本軍『慰安婦』問題解決全国行動2010」などが参加を呼びかけた。中国で7年間、慰安婦をさせられ、戦後は日本で暮らす宋神道（ソンシンド）さん(89)は車いすで参加し、「解決するまで死んでも死にきれない。心は絶対負けない」と語った。国際NGOスタッフの英国人カレン・ハローズさん(33)＝東京都新宿区＝は「性被害を証言した勇気は世界中の紛争地で苦しむ女性の力になったと思う」。

大阪市北区の扇町公園では午後6時半から集会が開かれ、約400人が参加。亡くなった元慰安婦の追悼歌などが披露され、ろうそくを手にした人々が「1000」の字を浮かび上がらせた。ソウルの水曜デモにも参加したことのある神戸女学院大4年の坂口真美さん(22)は「個人が国家に踏みにじられたのが問題の本質と思った。1千回も立ってきたおばあさんたちの声や生き様を私たちの世代が伝えていかなきゃ、と思う」と話した。（多知川節子）

「人間の鎖」に参加した元慰安婦の宋神道さん＝東京都千代田区

12月15日の朝日新聞朝刊

日本軍「慰安婦」被害者　宋神道さんを迎えて

今の宋さんに、本当に日本政府の謝罪の言葉を届けたい

11月26日、福島区民センターにて、日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワークとアムネスティ・インターナショナル日本「慰安婦」問題チームの共催で、宋神道さんをお迎えして映画とお話の集いを開催しました。

参加者180人が、映画「オレの心は負けてない」を観て、宋神道さんの10年に及ぶ裁判闘争、そして宋さん自身の尊厳を回復する姿を学び、気持ちを万全にして宋さんのお話をうかがいました。

またこの日の午前、やはり関西ネットの企画で大阪・十三の第七藝術劇場にて「オレの心は負けてない」上映会を開催し、満員の第七藝術劇場で舞台挨拶を行いました。

宋さんの10年に及ぶ裁判闘争を記録した映画「オレの心は負けてない」はこれまで関西圏で、市民の主催を中心に何十回も上映されています。なので宋さんをお迎えして証言集会を開くのは、ここ数年来の夢でもありました。しかし宋さんの年齢と、宮城にお住まいという距離の遠さを考えれば、なかなか実現できるはずがありません。

そしてあの３月11日。震災で女川に住む宋さんの消息が不明となっていた数日間、遠くに住む私たちも毎晩遠い宮城の地を思い、日本軍「慰安婦」問題の解決を求める全国の仲間と同様、まんじりともしない日々を過ごしていました。

あの震災の記憶がさめやらぬ今、機会があって宋神道さんをお迎えすることができて、本当に嬉しくてたまりません。そして今回が宋神道さんをお迎えして大阪で証言集会を開く最後になるだろうと思い、とても緊張して当日を迎えました。

宋神道さんは御歳89。足腰をだいぶ悪くされており、移動がとても辛そうでした。また前日は緊張からほとんど何も食されず、眠ることもできなかったそうです。にもかかわらず、宋さんは私たちに、とても気持ちのこもった証言をしていただきました。

聞き手に川田文子さんをお迎えしました。川田文子さんの話の引き出し方がとても上手く、短いけれども濃密で有意義な時間となりました。

午前の舞台挨拶で、宋さんは主に「慰安所」生活のことを語られました。辛い体験を語ってもらうことそのものが、聞いていて辛かったです。映画等で既に知っていた内容であっても、目の前で本人が語るのは全く違う重みがありました。

「オレが一番辛いのは、……（泣きそうな顔で）まさかあんなところに入って働くとは思いませんでした。殴られ殴られ、何にもしないのに悪いこともしないのに殴られ殴られ殴られてばっかりしていましたけども」

「どうやって子ども産んだべなあ思ったけど、恥ずかしいべし……大変だったんです。死んだ子どもが突っ張って出てこないし、サックかけて、手ぇいれて、手で引っ張り出して。その死んだ子ども（慰

安所の裏の）山さ行って埋めた。強かったんです、オレは、まだ若いときはね。次に（産んだのは）男の子なんだけど、生きてる子産んで……漢口へ行って、海軍の慰安所のとこで用事して、子ども産んで、おっぱいが腫れてねえ。脇は痛いし、おっぱいやらなきゃいけないしな。そうこうしているうちに女の人が来て、でオレの子どももらうからと。子どもが着るものないから自分の着物で子どもの着物を作り、それを子どもに着せてやるときに……泣きました（泣）」

午後の集会では、女川での生活が多く語られました。映画では知ることのできないお話に、とても衝撃を受けました。戦後の約70年、「在日」として日本人社会の中で生き抜いてこられた意味を、深く考えさせられました。

川田　女川の人の悪口、私随分聞いたけれども（笑）、その人たちも家とかみんな失ってねえ。親切にしてくれた人も、おばさんに意地悪した人も、宋さんが「慰安婦」だったと分かって……。

宋　　それは差別されました。アレは戦争の時、あっちで「慰安婦」に行ったとか、すぐそういう話が出る。隠そうと思っても隠しきれないんですよ。分かってるから。

川田　おばさん女川の人に言われた随分酷い言葉だなあと思ったのが、「オマエのべべはバケツみたいに大きいんだ」とか「オマエのべべはタコよってる」とか……。

宋　　へへっ（笑）。

川田　みなさんお分かりになります？この意味。慰安所であまりにも多くの軍人たちに対する性的慰安をしたので性器にタコ……座りダコとかできますよねえ。そういうふうに性器が固くなってるとか、バケツのように大きくなってるって。そんな酷いことも地域の人たちに言われて。

ここだけを抜き出すと差別ばかりされていたように取られてしまいかねませんが、話全体の中では、女川での人間関係のいい面も語られました。そういった面も含めて、全て津波に流されてしまったのです。

「地震が起こって、夢みたいだな、もう。戦争の時よりもひどいなと思いました」

宋さんは脈絡なく、思い出したようにそう語られました。戦争の時よりもひどいという言葉をどう受け取っていいのか、私は未だによく分かりません。ただ夢のように思える出来事、人間関係も含めて全て奪っていった地震の持つ意味の大きさ、宋さんに与えたショックを知りました。

20年宋さんと向き合ってきた川田さんが涙を流して訴えられたことに、改めて私たちはしなければならないことがあると、再確認しました。

「そうやって周囲の人たちに支えられて暮らしてきたんですよね。そういうもの全て失って、東京に来て、支える会のみんなの熱い思いはあるけれども、しかし日常的な何気ない挨拶とかで支えられることって随分ありますよね。そういうこと全部失って、今東京で暮らしています。

私は今の宋さんに、本当に日本政府の謝罪の言葉を届けたい（涙）……と、思います」

政治情勢は今最悪ではありますが、政治情勢で被害者の思いが変わるということはありません。宋さんの思いを市民に広げ、日本政府の謝罪と補償を、宋さんに届けるよう、今年も一日一日を頑張りたいと思います。

最後に、集会が終わってその場で宋さんを囲んで誕生日会を行いました。また前日にも箕面温泉の近くで食事会を開催しました。宋さんはたくさん歌を歌われ、「大阪はなにもいいとこ無いけど温泉だけはいい」と喜んでいただきました。辛い身体を押して来ていただいたにもかかわらず、このように喜んでいただいて、私たちは宋さんにとても感謝しています。

宋さん、川田さん、本当にありがとうございました。　　（だ）

韓国水曜デモ１０００回アクション１０００人キルト報告

去年秋の日本軍「慰安婦」問題解決全国行動2010の会議で「1000にちなむ取り組みを！」との呼びかけに「なんかせなあかん」と思っていた私は、イラク戦争の時、労組の女性部で取り組んだキルトを思いだし、1000人針ならぬ1000人キルトを提案しました。そして全国の「慰安婦」問題の一日も早い解決を目指す多くの仲間たちと共に、この運動はスタートしました。

キルトは布切れ１枚マジック１本で、だれでも、いつでも、どこでもできる、目に見える取り組みです。私たちが行っている水曜デモを初めとして、街頭や様々な集会に駆けつけ、「韓国水曜デモ1000回」の意義を伝えました。また職場など身近にいる知り合いで日頃「慰安婦」問題を伝えきれていない人たちに、キルトをお願いすることで、この問題を話せる機会になりました。

北は北海道から南は沖縄まで、各地の解決を望む人たちが一生懸命駆けずり回って、目標を遥かに超える1750枚のキルトが集まりました。

まず1000枚を全国の仲間と一緒に縫い上げ、11月15日の東京での院内集会、26日の宋神道さん大阪集会、27日の京都西院集会でお披露目し、12月14日の韓国・日本大使館前での記念すべき1000回水曜デモに届けました。そして残る750枚を３つに縫い分け、同日14日に開催された東京での外務省包囲行動で披露しました。1000回アクションに直接参加はできないけれども思いを同じくする全国の人たちの心を、しっかりと届けることができました。

皆さんのご協力、ほんとうにありがどうございました。1000枚は５月５日にオープン予定の「戦争と女性の人権博物館」に寄贈、750枚はこれから各地での取り組みに用いる予定です。　（森）

李政美×寿　チャリティコンサート　報告

11月５日、大阪市・東成区民センターにて「李政美×寿ジョイント　戦争と女性の人権博物館オープンにむけたチャリティコンサート」が、関西ネットも含む実行委員会の主催で開催されました。当日130名ほどが参加し、人権博物館建設委員会に22万円ほどカンパできました。

李政美さんはこれまでも「慰安婦」被害者を支援するコンサートで何度も歌っています。３月の地震で被災地支援に行った李政美さんはそれ以降、これまで以上に「いのちの価値」を問うように歌いかけるようになりました。これまでの支援コンサートにも増して、被害者への思いが伝わる歌でした。

寿さんは日本の差別構造の中で生きる沖縄をこれまでストレートに歌ってきましたが、この日の歌声は20年間いのちと平和の大切さを訴え続けてこられた「慰安婦」被害者の気持ちが乗り移ったかのようにパワフルな歌声でした。

このコンサートは戦争と女性の人権博物館支援が主目的なのですが、それ以上に、聴衆にこの20年間ハルモニたちが闘ってこられた意味を、そして日本政府が未だに不誠実であることの意味を、理屈ではなく感覚的に伝えられたことの方が、意味が大きかったと思います。

今後も文化活動を通じてハルモニたちの思いを伝えていきたいと思います。　（だ）

好評！映画「終わらない戦争」を観よう

「教育用ＤＶＤ」の贈呈を開始

「終わらない戦争」では、オランダ、フィリピン、中国、韓国の５人の「慰安婦」被害者が、日本軍性奴隷被害者として戦中戦後の苛酷な人生を証言し、その事実の重さに圧倒されます。それに加え、この問題に関わりのある研究者や政治家などにインタビューし、日本軍「慰安婦」問題の歴史的な背景や本質に迫っています。

この映画は国連人権政策センターが企画し、アメリカ議会で日本政府に対する「慰安婦」問題決議を推進するために、金東元（キムドンウォン）監督に依頼が来ました。「送還日記」で有名な金監督は、自身の撮影スタイルからあまりにも時間のない企画に一旦は断ったものの、2007年６月14日付けワシントンポストに掲載された日本の国会議員等による意見広告「ＦＡＣＴ」を知り、考え直したそうです。「公娼制度だった、強制連行ではない」という言い逃れを論破するために映画制作を引き受け、証言より確かな証拠はないことを映像で示したのです。

日本語字幕版の制作完成まで約６ヶ月。昨年秋に貸出を始め、北海道から沖縄まで30カ所以上の地域で上映会がおこなわれ、大阪では第七藝術劇場で２週間の上映会もおこないました。これまで多くの感動のお便りが届き、再上映会や近隣の地域にも広がっています。これからも一日も早い解決のために「終わらない戦争」が観られることを願います。貸出の収益は「戦争と女性の人権博物館」建設の募金に充てていきます。

一方で、若い人たちに見せたいのでＤＶＤを購入したいという申し出も寄せられています。しかし、日本での教育用として上映を許可されており販売はできませんので、今後、教育機関に「教育用ＤＶＤ」を贈呈していくこととします。生徒・学生を対象に上映会をされる学校・ゼミなどがありましたら、「申込み書」をお送りしますのでご連絡をください。

「終わらない戦争」2008年制作／韓国／上映時間60分

（連絡先）ianfu_ketsugi@jca.apc.org

活動協力金へのお礼とお願い

昨年６月発行の関西ネットニュース第１号で活動協力金のお願いをしてより今日まで、全国の皆様から、計107,000円もの協力金をお寄せいただきました。

また、７・31出版記念集会に対して、支出を越える多くの賛同金を頂戴し、それを以後の取り組みに活かすことができました。

本の販売やＤＶＤ貸し出しの収益はすべて人権博物館へのカンパとしている中、資金の心配なく、この半年余り、思い通りの活動ができたのも、ひとえに皆様方のご支援のおかげです。

本当にありがとうございました。

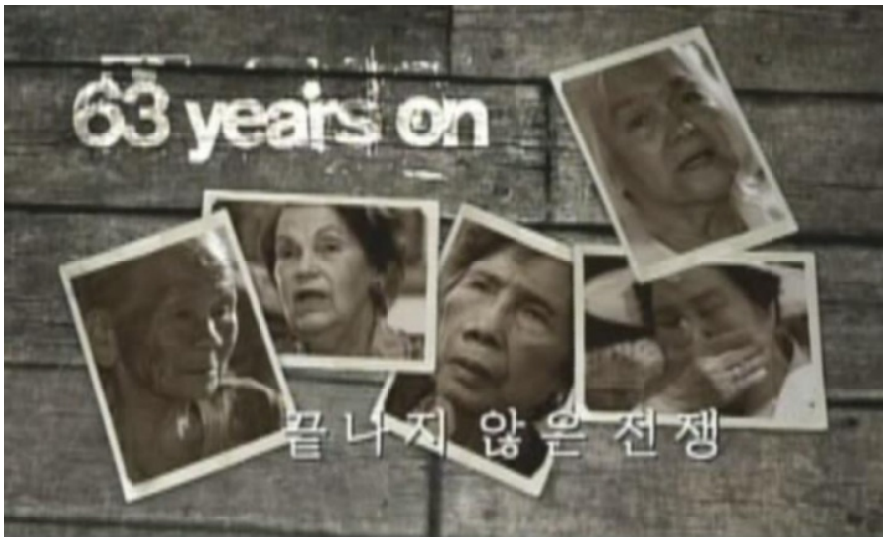
本来ならご送金いただいた活動協力金や賛同金に対して、一つ一つ領収書をお送りすべきところ、郵送費節約のため、省略させていただいたこと、この場を借りて、お詫び申し上げます。

※活動協力金　年間１口1,000円（２口以上歓迎）※

関西ネットメンバーに手渡していただくか、あるいは、下記宛てにご送金ください。

ゆうちょ口座：00980―3―209232
口座名義：日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク
ご送金の旨、メールか電話でご連絡いただければ幸いです。
メールmt-nao@agate.plala.or.jp（関西ネット会計）
電話　080-6185-9995

ご支援を、どうかよろしくお願いいたします。



映画の詳細は、HPをご覧ください。
http://www.jca.apc.org/ianfu_ketsugi/